

増加する医療事故

【質問】私の知人が入院中の治療のことで病院とトラブルがあり、悩んでいます。最近、医療事故の報道をよく目にしますが、なぜでしょうか。

(40歳・男性会社員)

背景に現場の過重労働



は国民なのです。医療事故の多くは、手術や患者さんの予期せぬ病状変化によって起こっています。手術は体の弱った患者さんが受けるわけです。

【回答】確かに医療事故は増えていきます。最高裁判所によると、医事関係訴訟事件の新規受付件数は、一九九七年に五百九十七件でしたが、二〇〇六年には九百十三件に増えました。

医療事故や医療訴訟が増えている大きな要因は、医師や看護師などの不足による医療従事者の過重労働にあります。

今の病院では当直明けの

勤務時間が三十二時間に及ぶことが珍しくありません。そんな状況では注意散漫となつてまともな医療ができるはずがありません。しかも医療が高度、複雑になるに従い、医療事故が起きる可能性は自然に増えます。医療事故には許されない悪質なものもあります。大部分は個人の責任というよりは過重労働に代表される医療システムの不備

が原因と考えられます。医療事故を減らし医療を安全なものにするには、医療従事者がゆとりを持って患者さんに接することが必要です。そのためには医療従事者の大幅な増員が不可欠です。しかし、現在の医療費抑制策の下では大幅な増員は望むべくもなく、医療の安全はますます脅かされることになるでしょう。結果、その被害を受けるの

から、薬の副作用と同じで思わぬ合併症が生じることがあります。人間の体は複雑で一人一人異なっているのです。どのような医療行為にも悪い結果となる可能性が潜んでいます。本来、医療は不確実なものなのです。

第三者の検証システムを

考える患者さん側と、「医療は不確実なものであり、常に最良の結果を得られるとは限らない」ことを理解している医療側との認識のずれが不信感の根底にあると思われまふ。そんな中で医療側は萎縮し、病院から医師が次々と去つていまふ。不信感の払拭(ふつしょく)は容易ではありません。患者さん側が医療は不確実なものであり、医療現場に死はつきものだという現実を直視することも必要でしょう。第三者による医療事故の検証システムをつくり、その分析に基づき医療側は医療システムの改善に努力しなければいけません。

(県医師会)